

投稿の手引き

九州歯科学会雑誌（以下、本誌）では、メール投稿（kds.zasshi@gmail.com）により受け付けています。あらかじめ学会ホームページよりカバーレターと適切な原稿種別の原稿テンプレート（ひな形）をダウンロードしてください。原稿テンプレートではあらかじめの書式が整えられており、以降の内容が既に設定されています。テキスト等を copy&paste する際は、書式を含まないプレーンテキストで貼り付けてください。原稿テンプレートの説明で不足している内容は、この手引きに解説していますので、分からなくなったら本稿を参照してください。その他不明な点があれば、上記メールアドレスにて質問も受け付けていますので遠慮なく事務局へお問い合わせください。

1. 投稿論文の種類と著者について

- 1) 投稿論文の内容は歯学・医学教育、基礎研究ならびに臨床に関するもので、国内外を含めて未発表のものであること。
- 2) 本誌で投稿を受け付ける論文は次の通りである。
 - (1) 総説
 - (2) 原著
 - (3) 臨床報告（症例報告および症例シリーズ）
 - (4) 教育報告（統計処理を含む研究は原著）
 - (5) トピックス（編集委員会より依頼された記事）
 - (6) その他（上記以外の記事）
- 3) 投稿論文の著者は全員会員であり、全て研究内容に対して実質的な貢献をしたものであること。すなわち、研究の構想やデータの収集やその解析に携わった者、論文の執筆およびその内容の重要な点についての助言を行った者、公表にあたりその掲載内容の許諾が得られた者でなければならない。
- 4) 著者は、投稿論文の内容について利益相反関係を全て申告しなければならない。

2. 研究倫理

- 1) ヒトを対象とした研究発表を行う場合には、ヘルシンキ宣言の主旨に則ったものとし、被験者および患者からインフォームドコンセントを得ていること、および所属機関の倫理委員会の承認を得ていること（承認年月日、承認番号を含む）等を論文中に明記しなければならない。
- 2) 動物実験を含む研究発表を行う場合には、「動物の愛護及び管理に関する法律（昭和 48 年法律第 105 号）」を遵守した上で、各研究機関が定めるガイドライン等に従って適正に実施したものでなければならない。本文中に所属施設の動物実験委員会等の承認を得ていること（承認年月日、承認番号を含む）を明記しなければならない。

- 3) 患者を対象とした研究を公表する場合には、全て「個人情報保護に関する法律（平成 15 年 5 月 30 日法律第 57 号）」に従って、別に定めた患者プライバシー保護に関する指針を遵守しなければならない。
 - 4) 人を対象とした臨床研究を公表する場合には、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省、厚生労働省、経済産業省）」および「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」に従ったものでなければならない。
 - 5) 遺伝子治療等の臨床研究に関する研究の発表を行う場合には、「遺伝子治療等臨床研究に関する指針（厚生労働省）」に従ったものであること。
 - 6) ヒト受精胚の提供を受けて行う遺伝情報改変技術等を用いる研究を公表する場合には、「ヒト受精胚の提供を受けて行う遺伝情報改変技術等を用いる研究に関する倫理指針（こども家庭庁、文部科学省、厚生労働省）」に従って、適正に実施されたものでなければならない。
 - 7) 国内未承認薬の使用あるいは未承認治療法や歯科適応のない薬剤・機器（以下、国内未承認薬等）の使用を含む研究論文の発表に当たっては、所定の必要な手続きを行うこと。
 - 8) ここに述べた関連倫理指針については、監督省庁のホームページ等を参照の上、最新のものを参照すること（下の URL 参照）。またここに明記された以外の研究であっても、該当する医学研究指針がある場合にはそれに従ったものでなければならない。
- (1) e-Gov 法令検索: <https://elaws.e-gov.go.jp/>
 - (2) 厚生労働省「研究に関する指針について」：
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html>

3. 論文の形式と原稿作成に当たっての一般事項

- 1) 論文の構成は、以下のとおりとする。英語のみで記述される場合もこれに準じる。学会ホームページにあるテンプレート（ひな形）をダウンロードし、これを下地にして書式を変更することなく原稿を作成しなければならない。
- (1) 総説：和文・英文タイトル、著者和名・英名、所属和名・英名、責任著者とその連絡先、Abstract(英文抄録)、抄録（和文）、本文（1. 緒言、2. 各種項目立て、結論と将来展望、謝辞）、引用文献、筆頭著者の経歴、図表（写真を含む）とその説明の順とする。英語のみで記述される場合もこれに準じる。
 - (2) 原著：和文・英文タイトル、著者和名・英名、所属和名・英名、責任著者とその連絡先、Abstract(英文抄録)、抄録（和文）、本文（1. 緒言、2. 材料と方法、3. 結果、4. 考察、5. 結論、6. 謝辞）、引用文献、筆頭と責任（連絡）著者の経歴、図表（写真を含む）とその説明の順とする。
 - (3) 臨床報告：和文・英文タイトル、著者和名・英名、所属和名・英名、責任著者とその連絡先、Abstract(英文抄録)、抄録（和文）、本文（緒言、症例、考察、結論、謝辞）、引用文

献、筆頭著者の経歴、図表（写真を含む）とその説明の順とする。英語のみで記述される場合もこれに準じる。

- (4) トピックスとその他：企画により異なるため、テンプレートを参照のこと
- 2) 基本的にテンプレートを用いて論文を作成し、フォントとそのサイズ、行数などの書式は変更してはならない。タイトルや項目などを除いて、本文の日本語はMS明朝（全角文字）、英語はTimes New Roman（半角文字）を用いて、基本10ポイントの文字サイズで入力すること。A4用紙サイズで余白を上4cm、下2.5cm、左右2.2cmとし、2段組み43行（1行23文字）とする。
 - 3) 原稿はひらがな（現代かな使い法）、横書きとし、漢字は学術用語など特殊なものを除き、常用漢字を用いる。数字はすべて算用数字（半角）を用いること。外国人および地名はなるべくアルファベット表記とする。
 - 4) 学術用語については、日本歯科医学会学術用語集（日本歯科医学会編、医歯薬出版、2008年）あるいは日本医学会医学用語辞典（日本医学会医学用語管理委員会編、南山堂、2007年）に準拠する。

4. タイトル、著者名、所属等

- 1) 論文の表題は簡潔に内容を表したものであること。副題をつける場合には“—”（全角）で文頭と文末を挟む。なお論文表題に商品名等が含まれるのは望ましくない。
- 2) 英文表題は冠詞、前置詞、接続詞などの付属語ならびに慣用の特殊語を除き、単語の先頭文字を大文字、以下を小文字で記す。またハイフンでつながる複合語の場合、ハイフンの後は小文字で記す。
- 3) 著者氏名は、多数であっても全員を記載すること。英名では、姓と名の最初の1文字のみ大文字で記載するものとする。
- 4) 所属機関名は省略せず、正式の名称を記入すること。なお、複数の所属機関に属する場合には、著者名の右肩（上付け）に1,2,3のように数字を連続して附す。
- 5) 責任（連絡）著者の連絡先は、正式な所属機関名、郵便番号と住所およびE-mailアドレスを記す。

5. 英文・和文抄録

- 1) 英文抄録（Abstract）は250語以内、和文抄録は600字以内とし、研究目的、材料と方法、結果および結論を含む内容とする。英文と和文は一致したものでなければならない。
- 2) 英文抄録は投稿前に英文校正を受けることを原則とし、その経費は著者負担とする。
- 3) 英文抄録末尾にKey wordsを小文字（英語）で記入し、和文抄録末尾にキーワード（日本語：カタカナ可）を記入する。論文の主題を端的に表現すると思われる単語を5個以内選択し、重要な順に記すこと。

6. 本文

- 1) 本文中に文献を引用するときは、片括弧で文の右肩（上付け）に付す。2つ引用する場合は「,」（半角カンマ）で、3つ以上の文献を連続して呼び出す場合は「-」（ハイフン）でつなぐ。基本的に句読点「、。」または「,」（英文の場合）の前に付す。引用論文の著者名を文中に挙げる場合は、姓のみを記し（名のイニシャルは不要）、その右肩に文献番号を付す。著者2名の場合には「と」または「and（英文の場合）」で連記し、3名以上は最初の1名のみを記入して「...ら」あるいは「...*et al.*（英文の場合）」と記載する。引用文献の書式については次項を参照すること。
 - (1) 1つの文献：～と報告されている¹⁾。あるいは、小野¹⁾は～
 - (2) 2つの文献：～と報告されている^{1,2)}。あるいは、小野^{1,2)}は～
 - (3) 3つ以上の文献：～と報告されている¹⁻⁵⁾。あるいは、小野ら¹⁻⁵⁾は～
 - (4) 不連続の文献：～とされているが^{1,3-5)}。
- 2) 項目の細分は、1. 2. 3.、1) 2) 3).....、(1) (2) (3)、a) b) c).....、(a) (b) (c).....の順による。編、項、節などの見出し用語は用いない。
- 3) 本文中の外国語（欧文）を以下の通りとする。
 - (1) 人名は通常姓のみを記し、大文字ではじめる。
 - (2) 人名以外の固有名詞（製品名・製造者名）についても、単語の先頭を大文字、以下を小文字で記す。また原則として製品等については、一般名（商品名®あるいは™、会社名、所在地あるいは海外製品の場合は国名）の順に記載する。
 - (3) 文中の普通名詞については、ドイツ語およびラテン語の場合は先頭文字を大文字、以下を小文字とし、英語およびフランス語の場合は全て小文字で記す。ただし文頭であるときは大文字ではじめるものとする。
 - (4) 生物など学会二名法で表す場合は属名の単語の先頭文字を大文字、以下を小文字でとし、イタリック体で記す。なおたびたび使用する場合は、本文への初出時のみフルネームで記し、2回目以後は属名を省略して、単語の先頭文字で表して差し支えない。

例) *Streptococcus mutans* → *S. mutans*
 - (5) 化学物質名や一般的でない薬品名などは原語を用いるものとし、この場合は固有名詞を除き全て小文字で表す。なおその他の外国語で、原語で示す必要がある場合はこの記載方法に準じて行う。
- 4) 文中の数字の取り扱いは下記の通りとする。
 - (1) アラビア数字（算用数字）：数量を表す場合
 - (2) 日本数字（漢数字）：数字を含む名詞、形容詞、副詞など

例) 第一大臼歯、一部分、二、三の、十数回など

- 5) 歯の表記法は、○顎○側○歯（例：下顎右側第一大臼歯）と具体的に明記するか、Zsigmondy's system（例：6）あるいはTwo-Digit system（例：46）を用いて表記する。
- 6) 本文中でたびたび使用する単語については、略語、略号を用いてもかまわないが、国際的に慣用されているものを用いる。また略語、略号は、その単語の初出時にフルネーム（略語等）のように記載し、必ず定義してから用いる。
- 7) 単位は原則としてSI単位系を使用することとし、なるべく附表2に示した例に従う。なお単位の 10^9 、 10^6 、 10^3 、 10^{-3} 、 10^{-6} 、 10^{-9} 、 10^{-12} のSI接頭語は、それぞれG、M、k、m、 μ 、n、pである。単位記号にはピリオドおよび複数のsは不要である。
- 8) その他の記号については、以下の通り記す。
 - (1) 陽イオン：元素または原子図の右肩（上付け）にNa⁺、Ca²⁺などと記し、それぞれ1価、2価を示す。
 - (2) 陰イオン：元素または原子図の右肩（上付け）にCl⁻、S²⁻などと記し、それぞれ1価、2価を示す。
 - (3) ~：数字間では「ないし（から）」を示し、化学構造式中では高エネルギー結合を示す。
 - (4) 糖類、アミノ類の構造系統D、LはスモールキャピタルD、Lとする。Wordでは小文字アルファベットを入力して選択し、「フォント」から「文字飾り」の「小型英大文字」にチェックを入れることでスモールキャピタル表示になる。
 - (5) 同位元素：元素記号の左肩（上付け）に⁴⁵Caなどと記し、質量数を付して表す。
- 9) 本文中での図や表の引用は漏れなく必ず行い、文章内に記載する。句読点の前に括弧書きにて行う。また、最終原稿での図や表の挿入位置を下の例のように括弧書きで行に指示を入れること。

例) (図1挿入)
- 10) 研究補助金、インフォームドコンセント、その他の特記事項等は「謝辞」に記載する。

7. 引用文献

- 1) 引用文献は原稿末尾に一括して引用順に記載し、片括弧で番号を付する。
- 2) DOIを有する論文には文末に<https://doi.org/>から始まるURLを張り付ける。
- 3) 原則として学会発表抄録の引用は避けること。やむを得ず引用する場合も、定期刊行物に抄録が掲載されているものに限る。
- 4) 引用文献の記載例
 - (1) 英語論文

英語論文は基本的にPubMedの”Summary (text)”でメール送付される書記を使用する。必要な情報が掲載されていれば、わずかに変更しても構わない。PubMedに掲載されない雑誌も同じ書式とし、掲載雑誌略名は、List of Journals Indexed in Index Medicusを参照すること。

<PubMedからのメール送付情報”Summary (text)”>

Ono K, Tanaka T, Inoue H, Ansai T, Sato-Wakasugi N, Muraoka K, Yokota M, Takehara N, Morimoto Y, Inenaga K. Small salivary gland size in patients with xerostomia of unknown etiology. Arch Oral Biol. 2009 Apr;54(4):369-73. doi: 10.1016/j.archoralbio.2008.12.006. Epub 2009 Jan 30. PMID: 19185851.

↓赤部分は削除。青はDOIなので文末に移動させ <https://doi.org/>を追加。

↓ DOI末のピリオドを必ず削除。フォントサイズは10pt。

Ono K, Tanaka T, Inoue H, Ansai T, Sato-Wakasugi N, Muraoka K, Yokota M, Takehara N, Morimoto Y, Inenaga K. Small salivary gland size in patients with xerostomia of unknown etiology. Arch Oral Biol. 2009 Apr;54(4):369-73. 2008. <https://doi.org/10.1016/j.archoralbio.2008.12.006>

(2) 日本語論文および医療系商業誌

情報の区切りは半角スペース、カンマ、コロン、ピリオドを使用する。全角で行わないこと。雑誌名は医学中央雑誌略名表（医学中央雑誌刊行会編）を参照する。巻(号):ページ, 年. は半角英数字で表記する。

例：西田 郁子, 藤井 誠子, 森本 泰宏: 根末完成過剰埋伏歯に発症した象牙粒の一例. 九歯学会誌 76(3-4):66-69, 2022. <https://doi.org/10.2504/kds.76.66>

(3) 書籍

著者: 書名 (版). 発行所, 発行地, 発行年, 引用ページ範囲. の書式に従う。もし同一書籍で複数の場所を引用する場合は、1つの対照番号で引用ページを連記する。分担で書かれた書籍の場合は、引用個所の著者名と分担表題名を挙げてから、編集者名（監修者名）と書籍名を挙げる。

単著の例：藤田 恒太郎: 歯の組織学 (第5版). 医歯薬出版, 東京, 1963, 145-146.

分担の例：上野 和之: 正常な歯周組織の形態と機能. 中静 正, 石川 純(編): 歯周治療学(初版). 医歯薬出版, 東京, 1981, 5-25.

(4) 翻訳書籍

原著著者名 (外国語で) : 翻訳者名 (訳) : 翻訳単行本名. 発行所, 発行年, 引用ページ.

例：Schluger RC: 青野正男 (監訳) : シュルーガー最新歯周治療学. 医歯薬出版, 1981, 200-300.

8. 図表

- 1) 図における項目ラベル(A, B, C...)に使用するフォントはArialかHelveticaにすること。図の最終サイズで12pt程度に調整する。軸ラベルやその他の説明書きは7~10pt程度が望ましい。

- 2) 表は Word か PowerPoint で作成し、画像にすること。表枠には横線だけを使用し、縦線を使用しないこと。適宜、二重線を使ってもよい。使用するフォントは、英語なら Arial か Helvetica、日本語なら MS ゴシックを使用する。
- 3) 図表 (写真を含む) は原稿 Word ファイルの最後に説明とともに指定サイズで貼り付けること。大きい画像を作成し、Word 上で縦横比を変更せずに縮小させるのが望ましい。図表がページをまたがないように適宜改ページをおこなう。
- 4) 総説と原著は図表を英語で作成し (フォント : Arial か Helvetica)、図説も英語で記述する (Times New Roman)。その他の原稿種別では英文が望ましいが和文でも構わない。フォントサイズは 9pt とする。
- 5) 図表は画像ファイルとして Word に貼り付け、横幅を 7.8cm、12.7cm もしくは 16.5cm にすること。これ以外の横幅は認められない。縦幅は自由であるが、20cm を限度とする。これらのサイズに合わせた状態で文字の視認性と解像度について著者自身が判断して文字サイズや解像度を調整すること。

9. 投稿

- 1) 投稿はメール投稿とし、kds.zasshi@gmail.com へカバーレターと図表を含む原稿の 2 つを投稿すること。件名には論文タイトルのみを入れ、本文には学会事務局への補足等があれば記入すること (空欄でも構わない)。
- 2) 投稿内容に不備があれば受理されず、事務局チェックが入ったカバーレターが返信される。その際は、チェックの入った事項を修正し、再度、投稿をやり直す必要がある。
- 3) 受理後の PDF 校正は 48 時間以内に返信しなければならない。